

# 音楽とお金の関係性

東放学園音響専門学校 2G 040 佐藤愛香音

## 目次

- 1,研究動機
- 2,仮説・仮設設定の理由
- 3,研究の方法
- 4,研究の内容・結果・考察
- 5,まとめ
- 

## 1、研究動機

今、音楽は当たり前のものになっている。音楽を好きな人はもちろん音楽を好んで聞かない人も日常生活で自然と耳に入ってると思う。

私は音楽が好きだ。全てのジャンルを聴いている訳でもないし、全ての年代の曲を聴いている訳ではない。一番好きなアーティストが誰かと聞かれても答えられない。それでも音楽は好きだし、沢山いろんなことを知りたいと思っている。

そこでアーティストはどのようにお金を得ているのか・私たちがしていることはアーティストのためになっているのか気になりこのテーマを設定した。

## 2、仮設・仮設設定の理由

### 仮設「音楽にお金を使う意味はある」

現代のインターネットではお金をかけなくても音楽が聴けるサイトやアプリケーションが多くある。しかし、それを使わずに音楽アプリにお金を払い音楽を聴く人、CDやレコードを買って音楽を聴く人など”わざわざ”お金を使って音楽を聴く人がいる。そのことのメリットを詳しく知りたいと思いこの仮説を設定しました。

- ・音楽にお金をかける人のメリットの探求
- ・音楽にお金をかけることによって、音楽の興味や関心などの深まりの比例の有無の探求

### 3、研究の方法

- ・インターネット
- ・アンケート
- ・アーティストの意見

### - 4,研究の内容・結果・考察

#### 音楽でお金を稼ぐには

- ・ライブのチケットで稼ぐ  
チャージバック制、ギャラ
  - ・CD,レコードを売って稼ぐ  
CDの売り上げは年々落ちている→レンタルができるようになり、今ではインターネットで聞くことが一般的
  - ・グッズを売って稼ぐ
  - ・音源をダウンロード販売して稼ぐ  
iTunes,Amazon,mp3など
  - ・音源をストリーミング配信して稼ぐ  
2016年上半期では、音楽産業の売り上げ比率は  
ストリーミング 47%  
ダウンロード 31%  
CDなど 20%  
その他 2%  
という結果が出ている。  
全米レコード協会調べによると、2016年のアメリカ音楽業界の売り上げの2/3は  
ストリーミングサービスが占めている。
- その他にも、映像 (MV・PV)を販売したりなどまだまだ音楽でお金を稼ぐ手段は地道にもたくさんあります。

## 現代の音楽

インターネットのサイトにあった「音楽をiTunesなどでダウンロードすることはありますか?」というアンケートに対し、

1度もない 56%

1、2度ある 23%

何度もある 21%

という結果が取れている。

● 1度もない ● 1、2度ある ● 何度もある

音楽はここまで世界に浸透しているのにお金をかける人は減っている。

誰も口に出して言わないが、一部の人間の間には確実に「音楽にお金を払うやつの方が変」という風潮が流布しつつあるのがわかる。

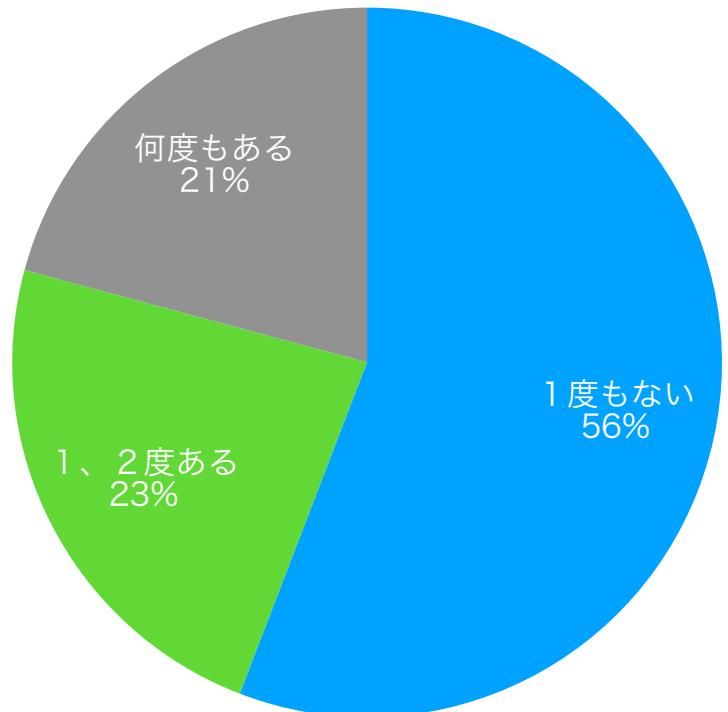
正直な話、音楽にお金をかけなくとも聴ける世の中にならってきている。

インターネットが主流の今、探せばほとんどの音楽が無料で聞くことができる。

例えば、好きなアーティストの楽曲がCDを買わなければ聞けなかったとする。

この場合も、そのアーティストによほどの思い入れがない限り、「無料で聴ける他の音楽でいいや」となっても不思議ではない。

このお金を払わなくても音楽を楽しめる体制の整いすぎている現状が、逆に音楽への興味を削ぎ、与えられるだけの音楽をタダで聴ければいい、という価値観を満喫させている。



## 周りの人の音楽状況

音楽への触れ方、音楽にお金をかけることについてアンケートを取った。

### ～回答結果～

1、まず、「音楽は聞きますか？」という質問

はい 90%

いいえ 10%

やはり音楽は人々の日常になっていることが分かる。

「いいえ」を選んだ人は「音楽に興味がなく、自ら聴こうと思わない」という意見があった。

2、「何のサイト・アプリを使って音楽を聞きますか？」

youtubeやニコニコ動画などは無料で動画を含む音楽を聞くことができるので大半の人が使っているようだ。

ストリーミングは、定額がかかつてしまうためyoutubeやニコニコ動画より少ない結果になった。

ストリーミングと同じ割合で、その他CD、違法サイト・アプリを使って音楽を聞く人がいた。

3、「音楽にお金をかけたいと思いますか？」

はい 80%

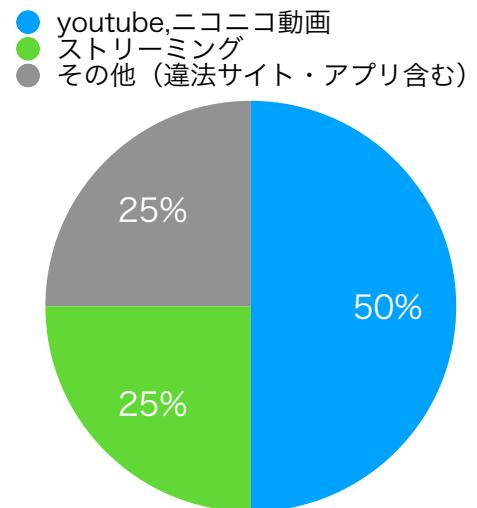
いいえ 20%

8割が音楽にお金をかけたいと回答した。

CDの購入、ストリーミングの使用している人は全員「はい」と答えていた。

さらに現状お金をかけていない人も「はい」と答えていた。

しかし、違法サイト・アプリを使っている人も「はい」と答えている人が多く、もしかしたら使っているものが違法だと気づいていない人がいるのではないかと思った。



「いいえ」と答えた人は、元々音楽を聞かない、違法アプリ・サイトを使用している、好きなアーティストがいない為音楽にお金を出すほどではない、youtubeやニコニコ動画で満足できているという回答があった。

また、「youtubeやニコニコ動画のみで音楽活動を行なっている人が好きで、お金をかける必要がない」という意見もあった。

”音楽が好きだからお金をかける”それ以外に理由はないと思っていたが、音楽活動自体をインターネット上でしていて、配信もストリーミングではなくyoutubeやニコニコ動画でしている人もいることに気づき、「音楽は好きだけどお金をかける必要がない」という軽い意見もあることを忘れないでいようと思った。

### アーティストはどう思っているのか

くるり

「音楽とお金とファン」 ブログから引用

『ミュージシャンやアーティストにとって「金儲け」がどの程度重要かというと、ひとつは活動費である。録音費、ツアーの入会費や場所代、宿泊費、広告宣伝費など、まあ金を掛けようと思えば掛けられるけど金を掛けずにやろうと思うと骨の折れることで、みんな四苦八苦しながらやっている傍ら、あまり音楽そのものが真ん中にはない人が利権を握っていたりするパターンも少なくないので、なんだかしんどい世界であることに変わりはない。

「売れたい」という気持ちは、ミュージシャンにとって「認知されたい」という承認欲求にほぼ一致する。金が欲しかったら、それほど野心持ってる人なら何も音楽家である必要もない。

「ファン」と呼ばれる人たちも、それを実践している。だから、投資をするのだ。感謝料なのである。

だから私は広島東洋カープに投資をし、JRの方が速くても阪急に乗るのだ。ただ私は広島の打線オーダーに決定権はないし、阪急3300系の廃車を食い止めることはできない。そして、絶対にファンとしての「ルール」を守る義務がある。

試合の妨害はしない。自分でチケットを買う。いち野球ファンとしての自分を貫く。列車運行の妨害はしない。いち利用者として安全運行に努めるスタッフに敬意を払う。何故自分がそれを愛しているかという私個人的な理由を盾にしない。対象のその理念が他のファンたちにとって愛されている理由を知り、心から応援を出来るか自分自身に問う。

金を払っているから偉いとか、常に対象のことを考えているから偉いとかはない。

2021年7月26日 月曜日

対象の「核心」に対して、自分自身がどのように振る舞えるかが、ファンの役割だと思う。』

好きなアーティストにお金をかけることは感謝料であり、かける、かけないは個人の振る舞いに過ぎないと1アーティストは言っている。  
お金を使う側の意見とは別にお金を使われる側の意見も知ることができた。

## 5、まとめ

音楽にお金をかける人は減ってきている。しかし、音楽にお金をかけようと思っている人は沢山いる。音楽といつてもストリーミング、CDだけでなく、レコードやカセットテープ、DJやバンド、DTMなど音楽への触れ方は”聴く”だけではない。聴くという行為にお金をかけることはなくとも好きなアーティストのライブやグッズにだけお金をかける人もいる。

数十年前の「音楽にはお金を払って聴く価値がある」という共通の認識は取り戻すことは難しい。音楽に限らず、絵や文などその他のものも共通だ。いろいろなものを手軽に楽しめるのは便利だが、誰も芸術や文化に価値を見出せなくなる未来にはなって欲しくない。正直、それらに価値を見出せないなら、楽しむ権利なんてないと思う。「音楽に興味がないから聴かない、お金を出さない」は個々の自由なのでいいと思う。しかし「音楽に興味はあるけどお金は出せない」というのは元々ある音楽の価値を失くしてしまっているというのが事実だ。

この音楽にお金をかける人とかけない人の違いは、現代の音楽に対する価値観の違いだと私は考える。音楽に限らず趣味に対し「生きがい」と感じる人と「暇つぶし」と感じる人がいると思う。この二つに限られるとは言い切れないがこの二つは大きいと思う。

「生きがい」と感じる人は音楽に対する価値は大きい。その分価値に見合ったお金をかけるのも納得がいくだろう。

基本的に趣味には時間もお金も必要となる。多趣味な人ほど、趣味に使う金額は膨らんでいくが、趣味がほとんどない人はそれを理解できなくなる。「暇つぶし」と感じる人の”暇”に対価を払わないのも十分に理解ができる。

音楽にお金をかける価値はあると一概に思っていたがそれは私自身の持論にしか過ぎないことが分かった。音楽に対する価値は人それぞれで、その価値にお金をかけたいと思う人もいればお金をかける必要がないと思う人もいる。

よって、音楽にお金をかける必要性は個人の自由だと分かった。s